

各機関の取組状況・施策等紹介

令和8年8月4日



国土を**整**え、全力で**備**える
国土交通省
中国地方整備局

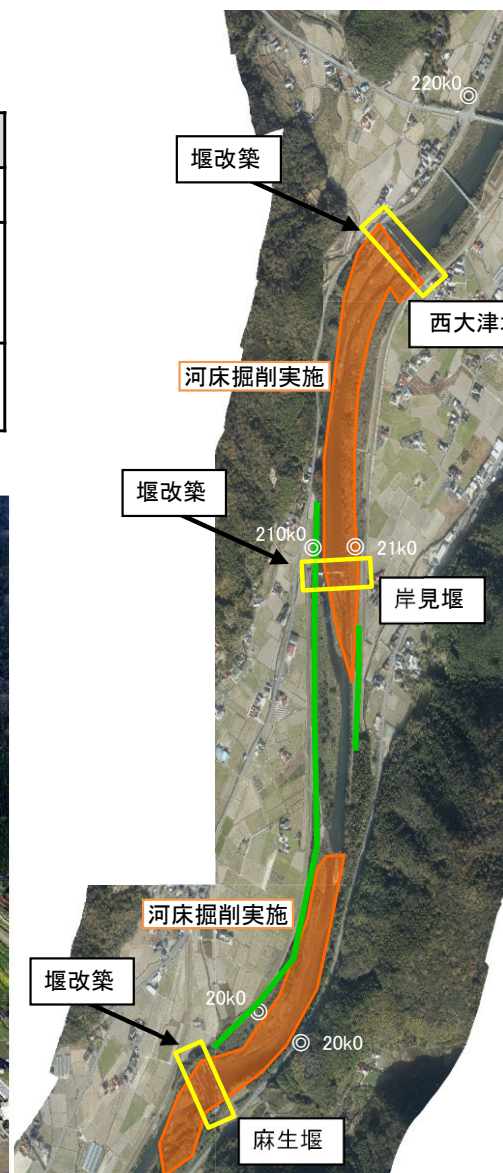
中国地方整備局 山口河川国道事務所

河川整備計画に基づき特定都市河川指定区間の整備を推進。

堤防の高さや幅が不足する箇所において堤防整備を実施する。
また、流下能力が不足する箇所において河道掘削を実施する。
今後、河道掘削に伴い改築が必要となる固定堰については、施設管理者と協議・調整を図り実施する。

区間	地先名※	区間		整備内容	今後の予定
上流Ⅱ	岸見	18k4～21k4	右岸	築堤	築堤
	麻生	17k7～20k0	左岸	築堤、河道掘削、浸透対策	築堤、河道掘削、浸透対策
	伊賀地	20k0～22k6	左岸	築堤、河道掘削	築堤、河道掘削

※岸見、麻生、伊賀地ともに山口市



- 令和7年度においては、防災力向上を目的とした防災ワークショップを開催しました。地域の水災害リスクについて学んで頂き、自らの防災行動について考えていただきました。

教師・児童等を対象とした防災ワークショップの開催

・山口市徳地地域の小中学校教職員・学校運営協議委員および防府市立新田小学校の5年生の児童を対象として、防災ワークショップを開催し、マイ・タイムラインの作成支援を行いました。



山口市徳地地域での防災ワークショップの様子

・マイ・タイムライン作成の事前知識として、地域の水災害リスク、防災情報・防災行動について学んで頂きました。



防府市立新田小学校での防災ワークショップの様子

・地域の水災害リスクについては、ハザードマップに加え、VRを活用することで、時々刻々と拡大する浸水想定を分かりやすく情報提供いたしました。



VRによる浸水想定の情報提供

・学習後、自分の学校区や居住地域において、洪水や土砂災害が発生することを想定し、どのような防災行動をとるべきかについて考えながらマイ・タイムラインを作成し、発表して頂きました。

河川名: 設『マイ・タイムライン』をつくってみよう!! 作成年月日 8 年 5 月

「台風や前線が来る」してから「避難」するまでの備えを考えて、
主な備えの別を完成させよう!

山形 氏名:

マイ・タイムラインの作成手順

1. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

2. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

3. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

4. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

5. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

6. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

7. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

8. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

9. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

10. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

マイ・タイムラインの作成例

1. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

2. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

3. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

4. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

5. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

6. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

7. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

8. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

9. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

10. 避難の準備 (避難場所、避難経路、避難物資の準備)

マイ・タイムラインの作成例

- 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成及び避難訓練の支援の一環として、避難訓練の支援に向けた要配慮者利用施設との打ち合わせを行う。
- 令和8年度は、職員向けのマイ・タイムラインの作成支援を行う予定である。

令和8年度の実施予定※

職員向けのマイ・タイムラインの作成支援を実施(予定)

新たな防災気象情報の説明

マイ・タイムラインの作成支援



要配慮者利用施設との打ち合わせ

次年度以降※

施設型タイムラインの設定	誘導指揮者	情報連絡係	避難誘導係	装備品等準備係
発生直後 1～3分前 早期注意情報、避難情報 (避難開始の判断) 避難レベル1 避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係
3分前 避難レベル2 避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係
3分前 避難レベル3 避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係
3分前 避難レベル4 避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	状況把握、情報収集 避難開始の判断 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係	避難誘導係 避難誘導係 避難誘導係

施設タイムラインの作成



避難訓練(屋内安全確保、図上訓練等)

出典: 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成・活用の手引き令和4年3月

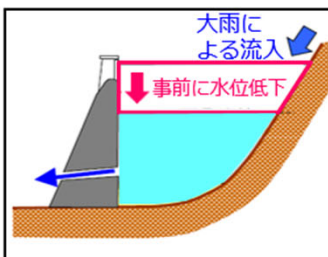
※要配慮者利用施設との打ち合わせにより支援内容は今後決定

中国四国農政局

< 事業の全体像 >

農業用ダムの活用

- 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げる等によって洪水調節機能を発揮。
- 降雨をダムに貯留し、下流域の氾濫被害リスクを低減。
〔各地区の状況に応じて、放流水を地区内の調整池等に貯留〕



【施設の整備等】

- 施設改修、堆砂対策、施設管理者への指導・助言等

排水施設等の活用

- 農業用の用排水路や排水機場・樋門等は、市街地や集落の湛水も防止・軽減。

排水機場と周辺の市街地

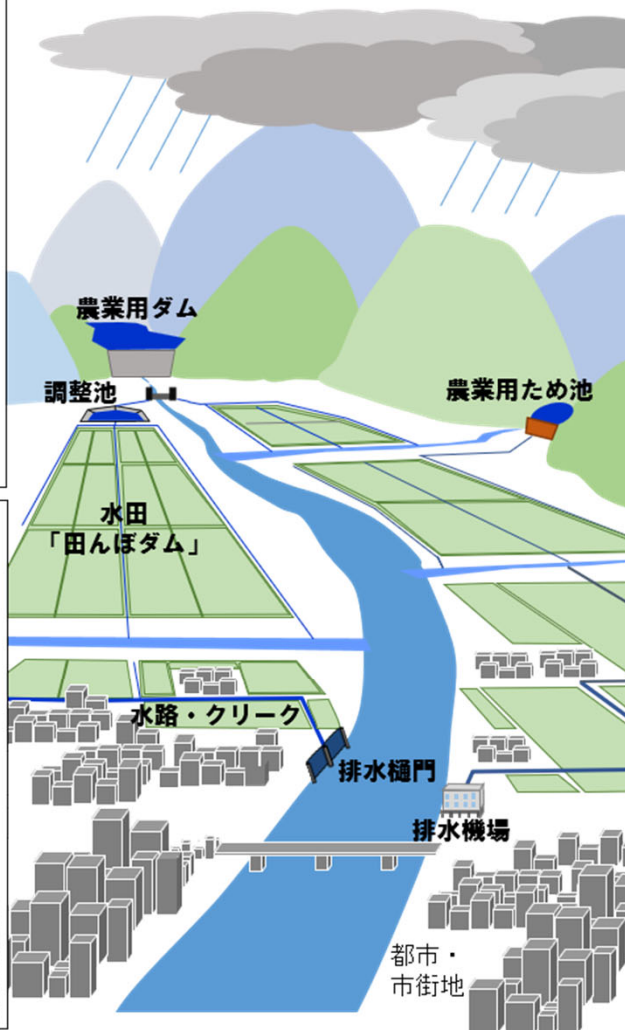


水路・クリーク



【施設の整備等】

- 老朽施設改修、ポンプ増設、降雨前の排水操作、水管理システムの整備等

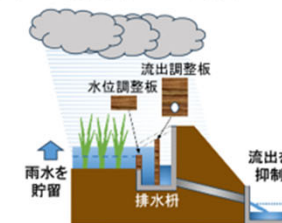


水田の活用（田んぼダム）等

- 「田んぼダム」（落水口に流出量を抑制する板等を設置し、水田に降った雨をゆっくりと排水）の取組によって湛水被害リスクを低減。



流出調整板設置の例

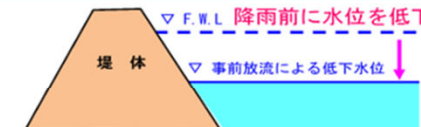


【施設の整備等】

- 水田整備、「田んぼダム」の取組促進、農地の保全

農業用ため池の活用

- 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げる等によって洪水調節機能を発揮。
- 農業用水の貯留に影響のない範囲で、洪水吐きにスリット（切り欠き）を設けて貯水位を低下させ、洪水調節容量を確保。



スリット設置の例



【施設の整備等】

- 堤体補強、洪水吐き改修、施設管理者への指導・助言等

<対策のポイント>

水田の落水口に流出量を抑制する堰板等を取りつけ、水田に降った雨を一時的に貯留することで、実施する地域や下流域の河川や水路における水位の急上昇を抑え、浸水被害リスクを低減させる「田んぼダム」の取組を推進します。

<事業の内容>

1. 畦畔補強や排水口の整備等に対する支援

※ 下線部は拡充内容

「田んぼダム」の実施に向けた畦畔再構築や調整活動等を定額で支援します。

【主な助成単価】畦畔築立 16万円/100m、排水口整備 5万円/箇所

【対象事業】農業競争力強化農地整備事業、農地中間管理機構関連農地整備事業、国営農用地再編整備事業、農地耕作条件改善事業

2. 営農再開時の速やかな排水に向けた支援

「田んぼダム」の取組地域において、湛水による営農への影響を最小限にし、営農再開に向けて速やかな排水を行うため、基幹から末端までの農業水利施設の一体的な整備等を支援します。

【対象事業】水利施設整備事業（流域治水対策型）

3. 「田んぼダム」の活動に対する支援

多面的機能支払交付金の資源向上支払（共同）において、地域共同で行う水田の落水口への調整板の設置や畦畔の嵩上げ、これらの維持管理等を支援します。

【交付単価】都府県 2,400円/10a、北海道 1,920円/10a

【加算措置】都府県 400円/10a、北海道 320円/10a

※「田んぼダム」の取組実施による加算。

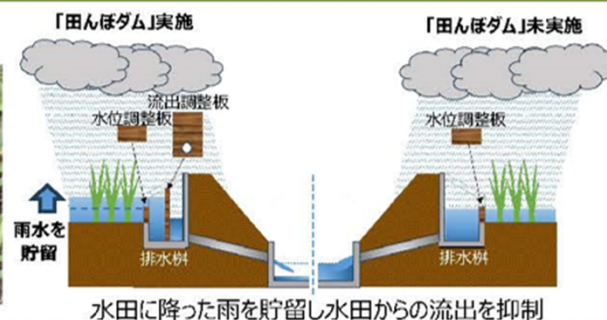
※資源向上支払（共同）を5年以上実施した地区又は資源向上支払（長寿命化）と合わせて取り組む地区は75%単価を適用。

【実施要件】

- ・「田んぼダム」の取組等を定めた計画を策定すること（1～3の支援）
- ・受益面積の5割以上で「田んぼダム」の取組が実施又は実施見込みであること（1、2の支援）
- ・流域治水プロジェクト等が策定・公表された水系又は当該年度中に策定・公表される見込みの水系で実施するものであること（1、2の支援）
- ・資源向上支払（共同）を実施しており、同支払の交付を受ける田面積のうち5割以上で「田んぼダム」を実施していること（3の支援）

<事業イメージ>

「田んぼダム」の取組



「田んぼダム」の導入・効果発現に向けた支援



【お問い合わせ先】

（1、3の事業） 農村振興局農地資源課（03-6744-2208）
（2の事業） 水資源課（03-3502-6246）

「田んぼダム」の手引き



令和8年3月

農林水産省 農村振興局 整備部

概要版



第2章 「田んぼダム」の概要

○「田んぼダム」とは、「田んぼダム」を実施する地域やその下流域の湛水被害リスクを低減するための取組です。

第3章 「田んぼダム」の効果（地形条件の異なる地域で浸水量、浸水面積を低減）

○ 低平地、傾斜地の地形条件が異なる地域でも効果を発揮することができます。

第4章 「田んぼダム」の営農への影響（水稻の収量・品質と管理労力への影響）

○ 水稻で湛水被害が最も生じやすいのは、穂ばらみ期（7月～8月）ですが、この時期の水稻の草丈は30cmを以上に達していることから、「田んぼダム」の実施により、畦畔の範囲内（30cm程度）で雨水を貯留しても、水稻の品質や収量

第5章 「田んぼダム」の取組を進めるために（実施事例）

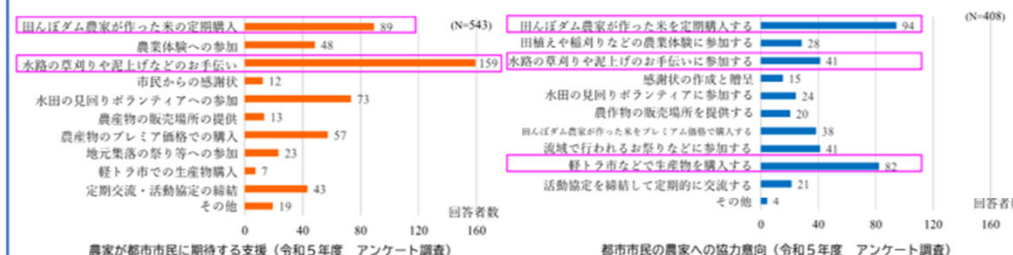
○ 「田んぼダム」は農家の協力を得て実施する取組であり、地域での普及拡大には、それぞれの地域の課題や特性に応じ実施体制を構築する必要があります。そのためには、関係者間の情報共有や協議を通じた相互理解が不可欠で、地域全体で協働する仕組みづくりが鍵となります。

第6章 水田流出簡易計算プログラムを活用した取組

○ 水田流出簡易計算プログラムにより、水田の条件や降雨、堰板の種類を設定することで、水田1筆からの流出量や田面水深の変化を計算できます。また、「田んぼダム」の有無や器具の形状・降雨条件の違いによる影響を数値やグラフで比較し、効果を定量的に確認できます。

第7章 今後の展開（地域で取り組む「田んぼダム」）

- 「田んぼダム」の恩恵を受ける下流側の都市市民と協働するための課題を把握するためアンケート調査を行いました。
- 都市市民が農家に対して協力できる支援内容は、「経済的支援」や「労働提供」であり、農家が市民に期待する支援と概ね一致しており、農家と都市市民、両方の意向を取り入れた活動が可能であることが示されました。
- ただし、都市市民の中には、農家から協力依頼を受けた際の協力意向について「いまのところ分からない」、と態度を保留した人も多く、「田んぼダム」の効果を広く啓発していくことが重要です。



アンケート調査について

「田んぼダム」を普及拡大していくために必要な条件や支援等を明らかにすることを目的として、令和5年度にアンケート調査を実施しました。調査結果は、手引き本編に収録しています。

- 対象地区:「田んぼダム」に先行的に取り組んできた北海道岩見沢市、栃木県栃木市、栃木県小山市、新潟県見附市
- 対象者:農業者、および農業者が営農しているエリアの下流に住む都市市民 1地区あたり各150名を抽出
- 設問(農業者):年代、被災履歴、継続年数、不安要素、取組を行っていない理由、協力の意向、継続の動機付けなど
- 設問(都市市民):年代、被災履歴、「田んぼダム」の認知、協力の意向など
- 調査結果の整理方法:単純集計、クロス集計

田んぼダムによる防災・減災の取組

つるおか
【山形県鶴岡市】

農地・水・環境保全組織いなばエコフィールド協議会

- 当地区は、ほ場整備後35年程度が経過し、施設の老朽化等から、豪雨時の排水対策に苦慮している状況にあった。
- 豪雨による水害等の対策として「田んぼダム」に着目し、平成23年度から一部のエリア(43ha)においてモデル的に取組を実施。
- この取組により、水害対策への地域住民の理解が深まり、農家組織と各集落の自主防災組織との連携による新たな防災管理体制の構築のきっかけとなっている。

【地区概要】

- ・取組面積 1,219ha (田1,213ha、畑 6ha)
- ・資源量 開水路144.5km、パイプライン34.9km、農道59.7km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、農業団体・自治会等その他団体等 107団体
- ・交付金 約96百万円(R3)
〔 農地維持支払、資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

取組の経緯



水路法面の崩壊

水路側壁の倒壊



- 水路の老朽化に加え、集中豪雨により排水路側壁の倒壊や法面崩壊が度々発生していた。
- 排水路等の施設の保全のため、農地・水保管理支払で取り組める「田んぼダム」により改善を図ることとした。
- 取組当初は田んぼダムの基礎資料も少なく、模索しながらの活動に苦慮。

田んぼダムによる防災・減災の取組



湛水状況



水戸板設置状況

田んぼダムの効果

- 田んぼに降った雨を、排水口を絞り、ゆっくり排水。豪雨時に雨水が一時的に田んぼに貯留され、洪水被害を軽減。
- 田んぼダムの取組がきっかけとなり、農家組織、各集落、消防団等と自主防災組織が結成されるなど、新たな防災管理体制が整備された。
- 今後は、行政、土地改良区等と一体となって田んぼダムの取り組み範囲を拡大していき、地域において更なる防災・減災への意識醸成を目指す。

農業用ため池の低水管理及び事前放流の取組

農業用ダム

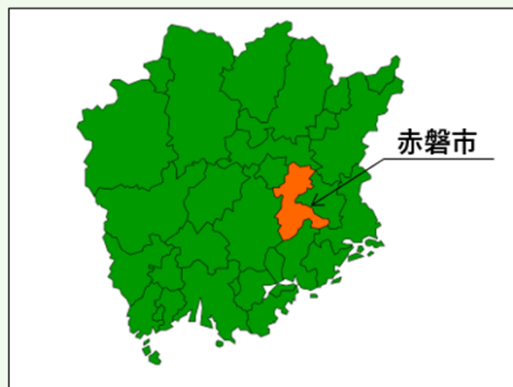
田んぼダム

ため池

排水施設等

位置図

岡山県赤磐市



取組内容・効果

- 本ため池では、洪水吐きを超えると下流地域が浸水するリスクが高まるため、従来から低水位管理を実施していたが、雨水貯留能力を高めるため、洪水吐きより低い位置に高さの異なる2門の排水樋門を設置。
- かんがい期には上段の排水樋門を開け、大雨時にはそこから一定量の雨水を排水し、水位上昇を抑制し、雨水貯留能力を高める。また、台風シーズンなどの非かんがい期において、大雨が予想される場合には、受益者と協議を行い、下段の排水樋門を開け、事前放流を行うことにより、雨水貯留能力の強化を図る。

取組地域の概要

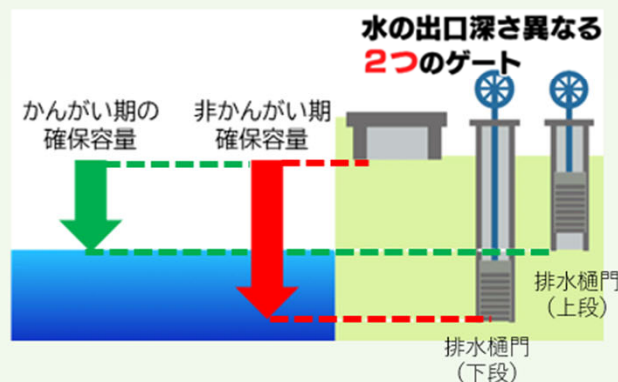
- (一級水系) 旭川水系砂川流域
- 岩田大池は防災重点農業用ため池であるが、大雨時には越流堰を超え、下流の住居地域にたびたび浸水被害を及ぼしている。
- 関係地区との調整により、従来から低水管理を行っていたが、事前放流用の排水樋門を設置し、雨水貯留能力の強化を図る。
- 令和3年3月策定の旭川水系流域治水プロジェクトに本ため池を位置付け(旭川水系流域治水プロジェクト2.0でも継続)。



岩田大池の洪水吐きと排水樋門(下流側から)



排水樋門(下段)からの排水状況



排水樋門と確保容量の関係



排水樋門(下段)から排水路への排水状況

農林水産省

English > こどもページ > サイトマップ 文字サイズ

標準

大きく

逆引き事典から探す

組織別から探す

キーワードから探す Google 検索

検索

会見・報道・広報

政策情報

統計情報

申請・お問い合わせ

農林水産省について

ホーム > 農村振興 > 流域治水の取組

流域治水の取組

1 流域治水の取組（流域治水プロジェクトの策定）

河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域としてとらえ、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」の取組が全国で行われています。

各水系においては、国、流域自治体、企業等が協働し、河川整備に加え、利水ダムの事前放流、「田んぼダム」の取組、雨水貯留浸透施設の整備や土地利用規制など、重点的に実施する治水対策の全体像が「流域治水プロジェクト」として取りまとめられ、全国109全ての一級水系で策定・公表されているほか、二級水系でも策定が進められています。

また、流域治水の取組を更に加速化・深化させるため、全国109の一級水系では、気候変動の影響を踏まえた河川及び流域での対策の方針を反映した「流域治水プロジェクト2.0」としてまとめられています。

- ・流域治水の推進（国土交通省ウェブサイト） [\[外部リンク\]](#)
- ・流域治水プロジェクト（国土交通省ウェブサイト） [\[外部リンク\]](#)
- ・「流域治水プロジェクト2.0」を策定します（国土交通省報道発表R5.8.22） [\[外部リンク\]](#)
- ・令和6年度の流域治水の取組の進展について（国土交通省報道発表R7.4.8） [\[外部リンク\]](#) **New!**

2 農地・農業水利施設における取組

一級水系で策定されている全119の流域治水プロジェクトのうち110プロジェクト（R7.3末時点）において、農業用ダムの事前放流、「田んぼダム」の取組、農業用ため池、排水施設等の活用など、農地・農業水利施設の有する洪水調節機能等を活用した流域治水の取組が進められています。

農林水産省では、農地・農業水利施設を活用した流域治水の推進に当たり、施設の整備から管理に至るまで一連の取組を様々な事業制度により支援しています。詳しくはパンフレットを御確認ください。

- ・農地・農業水利施設を活用した主な流域治水対策の支援事業（令和8年4月）（PDF：2,359KB） [\[外部リンク\]](#) **New!**

農地・農業水利施設を活用した流域の防災・減災の推進（「流域治水」の取組）

<対策のポイント>

都市・市街地の近郊や上流域には、水田が広がり、多くの農業用ダム・ため池・排水施設等が存在しており、これらの農地・農業水利施設の有する国土保全機能をいかして、あらゆる関係者協働の取組である「流域治水」を推進します。

<事業の全体像>



> 農業用ダムの活用 > 水田の活用（田んぼダム） > 農業用ため池の活用 > 排水施設等の活用

問合せ先

○農林水産省における流域治水の取組（農地・農業水利施設の活用）について

中国四国農政局農村振興部設計課
086-224-4511（内線 2688/2622）

○「田んぼダム」の支援について（農地整備事業／多面的機能支払交付金）

中国四国農政局農村振興部農地整備課
086-224-4511（内線 2661/内線 2671）

○「流域治水への取組」の問合せ先
農林水産省農村振興局整備部水資源課
担当者：農業用水対策室
代表：03-3502-8111（内線5516）
ダイヤルイン：03-3502-6200



https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/ryuuiki_tisui.html

近畿中国森林管理局

- ・ 佐波川流域の上流部において森林の保水力の維持・向上のため、森林整備(除伐・除伐Ⅱ類、間伐、保護伐)を実施している。
- ・ 治山ダムを設置することで、洪水や土石流、流木の流出を抑制する取組を行っている。



除伐作業 実行箇所



除伐Ⅱ類作業 実行箇所



間伐作業 実行箇所



保護伐作業 搬出状況



治山ダム 完成状況

令和7年度の取組状況

保護伐	4.91HA
除伐	9.98HA

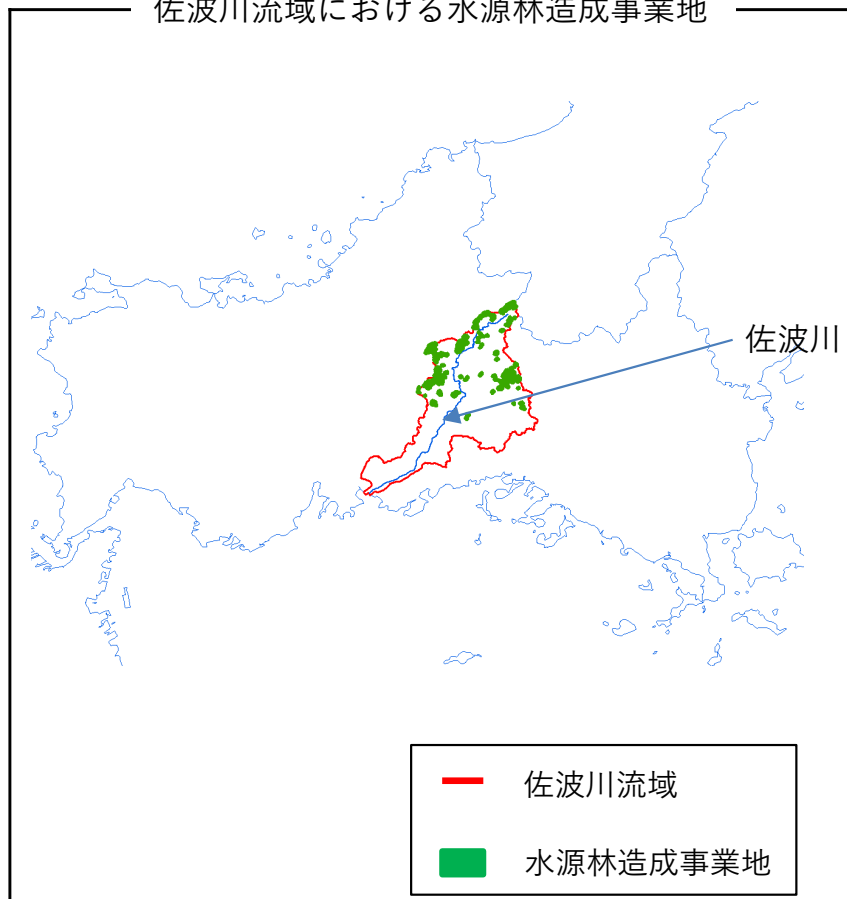
令和8年度の取組予定

保護伐	6.73HA
溪間工	1基

森林研究・整備機構森林整備センター

- ・ 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進。
- ・ 佐波川流域における水源林造成事業地は、77箇所（森林面積 約2,500ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施。

佐波川流域における水源林造成事業地



水源林の整備



針交混交林

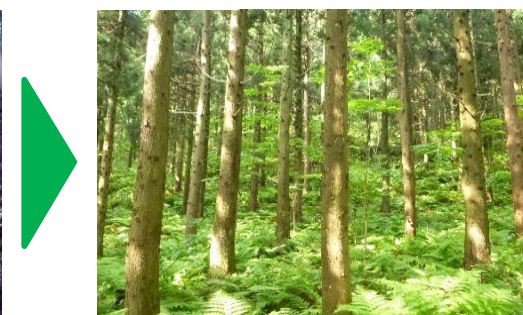


育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前

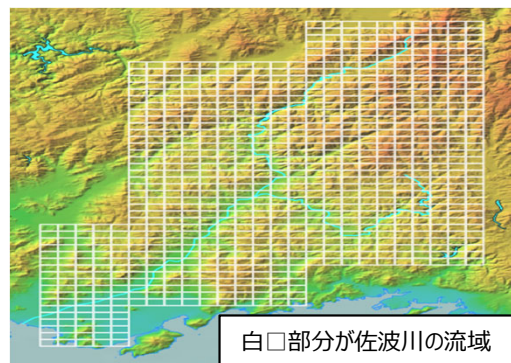


間伐実施後

下関地方気象台

- 流域平均雨量を用いた気象解説を行い、佐波川水害タイムラインに雨量予測を組み込むなど、流域水害対策協議会のニーズに沿った利用方法を今後検討する。

「流域平均雨量」とは



佐波川の流域に降った（これから降る）雨を、流域内で平均したもの

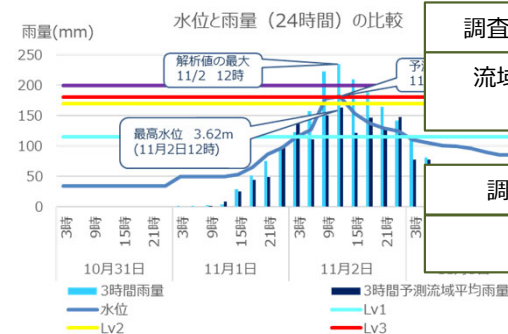


洪水（出水状況等）に直結



実況や予測をお伝えすることにより、流域水害対策に貢献できる可能性

「流域平均雨量」に関するこれまでの調査 （山口河川国道事務所・下関地方気象台）



調査内容

流域平均雨量と基準観測所ごとの水位との関係性など
→流域水害対策における有用性

調査結果

河川水位と相関あり



流域水害対策に有用であり、各協議会で紹介できる結果と判断

「流域平均雨量」を用いた気象解説による流域水害対策への貢献イメージ

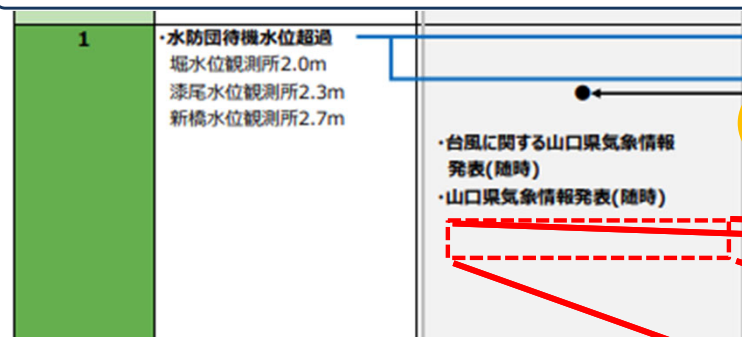
電話やメールによる解説



台風により佐波川の流域平均雨量が■■■ミリを超える予想です



佐波川水害タイムラインへの組み込み



「佐波川の流域平均雨量を用いた気象解説」

「佐波川の流域平均雨量が▲▲時間で■■■ミリを超える予想」

- ・ 教員、学生や外国人等を対象とした大雨防災ワークショップの実施。
- ・ 教員、学生や自治会、市民団体等を対象とした出前講座の実施。

大雨防災ワークショップの様子

山口芸術短期大学保育科学生対象



R7.11.19

周南市外国人住民対象



R7.8.24

大雨の時に、どのように考え・どう行動すればよいかは、その人の周辺環境や家族構成等によって異なる。そのため、大雨災害から身を守るために必要な知識や行動の習得に役立ててもらおう取組を行っている。

※令和7年度出前講座実施機関(山口市、防府市、周南市)

周南市富田東小学校、防府市新田公民館、山口県消防学校、山口県高等学校教育研究会理化部会

- 令和8年出水期より防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警報を新設**。
- 情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。（例：レベル4大雨危険警報 等）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 波の打上げによる浸水	住民が とるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

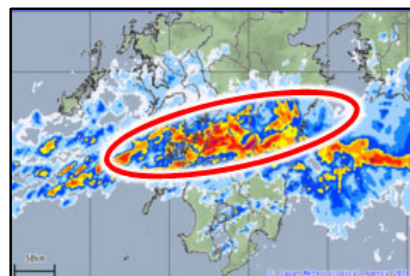
観測の強化、予測の強化により、線状降水帯に関する情報の段階的な改善を実施。

- ・ 令和8年から、2～3時間前を目標にした予測情報を提供予定
- ・ 令和11年から、半日前に市町村単位で線状降水帯発生の可能性が把握可能な分布形式の情報を提供予定

「迫りくる危険から直ちに避難」→情報のリードタイムをのばす

発生情報

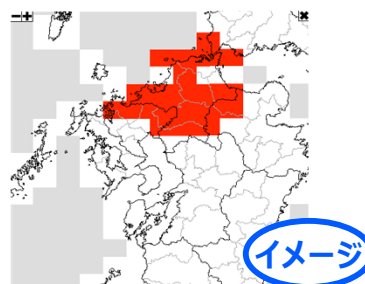
令和3年	線状降水帯の発生をお知らせする情報
令和5年	最大 30分 程度前倒し



線状降水帯の雨域を楕円で表示

直前予測

令和8年
2～3時間前を目標に
予測情報を発表



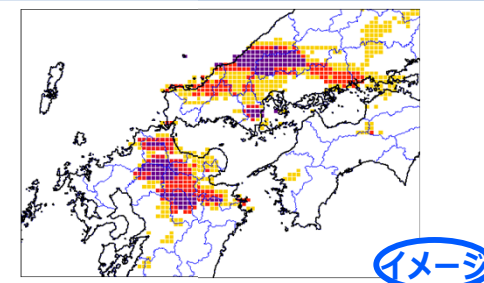
補足情報として、線状降水帯による大雨の恐れがある大まかな領域を図情報で表示（予定）

半日前予測

令和4年	<u>地方単位</u> で予測
令和6年	<u>府県単位</u> で予測

↓ さらに対象地域を狭める

令和11年
市町村単位で把握可能な危険度分布
形式の情報を提供



線状降水帯発生の可能性が把握可能な分布形式で表示（予定）

- 出水期に備え、洪水予報(山口河川国道事務所、下関地方気象台共同発表)発表にあたる訓練を実施した。
- 令和7年3月に更新された洪水予警報等作成システムを操作し、操作方法の習熟や発表までの流れ等の確認を行った。
- 令和8年6月は山口河川国道事務所河川管理課から3名が来台し、本番を想定した洪水予報発表訓練を実施した。

令和8年5月20日(水)
令和8年6月15日(月)
令和8年7月31日(金)

参加機関：山口河川国道事務所、下関地方気象台
参加機関：山口河川国道事務所、下関地方気象台
参加機関：山口河川国道事務所、下関地方気象台



本番を想定した
洪水予報発表訓練を実施



洪水予警報等作成システムで
洪水予報の文案を作成

作成した洪水予報の
文案を相互で確認

演習

さばがわ
佐波川レベル3 氾濫警報
(警戒レベル3相当情報)

佐波川 洪水予報 第1号
令和8年06月12日 13時20分
山口河川国道事務所 下関地方気象台 共同発表

(見出し)
さばがわ
佐波川では、今後、氾濫危険水位に到達する見込み

(本文)
【警戒レベル3相当】津尾基準観測所(山口市)受け持ち区間
これは、高齢者等避難の発令の目安です。佐波川の津尾基準観測所(山口市)では、12日14時頃に、「氾濫危険水位」に到達する見込みで、今後、避難指示の発令の目安である警戒レベル4相当となる可能性があります。佐波川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、山口市、防府市では浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。

(警戒レベル相当情報等見込み表)

佐波川レベル3 氾濫警報 (警戒レベル3相当情報)			
新着・更新	基準観測所	場所	新着
対象河川	佐波川		佐波川
警戒レベル()相当			3
水位	現況		3
文は	予測		(6時間後までにレベル4相当に到達)
新着	山口市		3
更新	防府市		3

市区町村ごとの警戒レベル相当の警報は、同一洪水予報区間内の基準観測所の受け持ち区間ごとの警戒レベル相当情報に基づいて、それぞれの広域による浸水が想定される地区が含まれる市区町村に対して一律に発表しているものです。

レベル相当発表の方向について
用語ウェブサイト：早見表
http://www.river.go.jp/kawabou/glossary/pc/term/?hayamityo

流域	10日 13時 10分～12日 13時 10分までの流域平均雨量	12日 13時 10分～12日 16時 10分までの流域平均雨量の見込み
佐波川流域	0ミリ	0ミリ

山口県

- ・ 治水上支障のある箇所等において、堆積土砂の撤去や樹木の伐採を実施
- ・ 水害の頻発化・激甚化する中で、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節容量に最大限活用するため、ダムを有する水系毎に治水協定を締結し、事前放流等の運用を開始

引谷川



河川浚渫

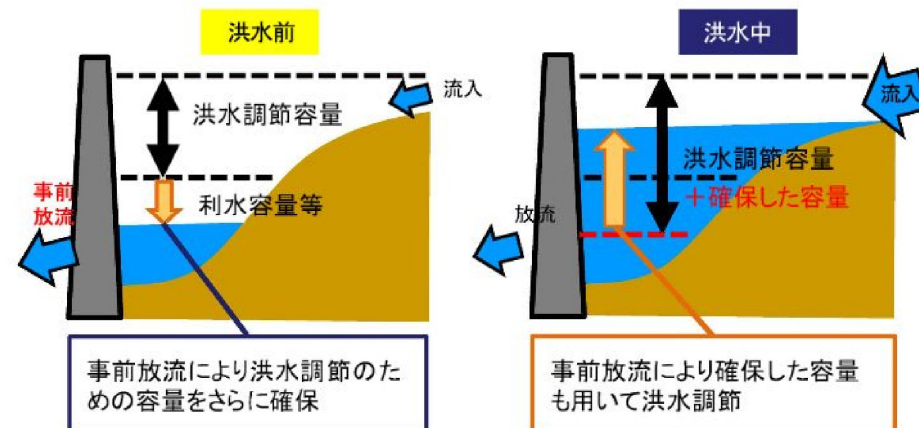


島地川



既存ダムの有効活用

○事前放流とは、洪水を予測した場合に、水力発電、工業用水、水道等のために確保されている容量に支障を与えない範囲で、この利水容量を放流して一時的に治水容量に振り替えるもので、ダムの計画以上の洪水に対してダム下流河川の沿川における浸水被害の防止・軽減を目的とする。



- 山口県では、令和3年の水防法改正に伴い、新たに指定対象となった佐波川水系32河川について、令和7年6月に「洪水浸水想定区域」を指定するとともに、その範囲等を示した「洪水浸水想定区域図」を公表

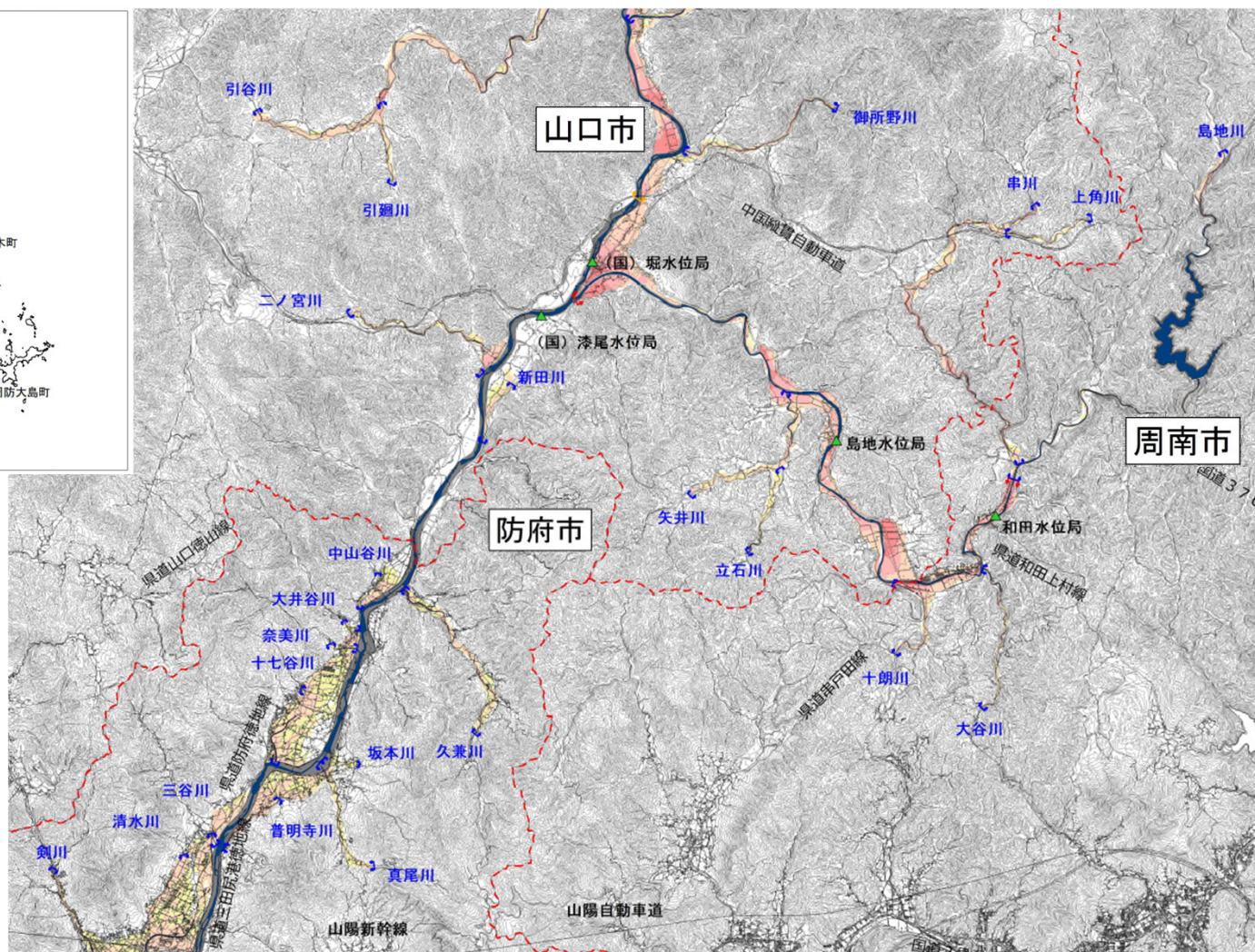
位置図



凡 例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5～3.0m未満の区域
- 3.0～5.0m未満の区域
- 5.0～10.0m未満の区域
- ▲ 水位局
- 行政区域界
- 河川等範囲
- 計算対象区間
(水位周知区間及び洪水予報区間)
- 計算対象区間
(水位周知区間及び洪水予報区間以外)



- 令和7年度も引き続き「自主防災アドバイザー」の養成研修を実施。

【自主防災アドバイザー制度】

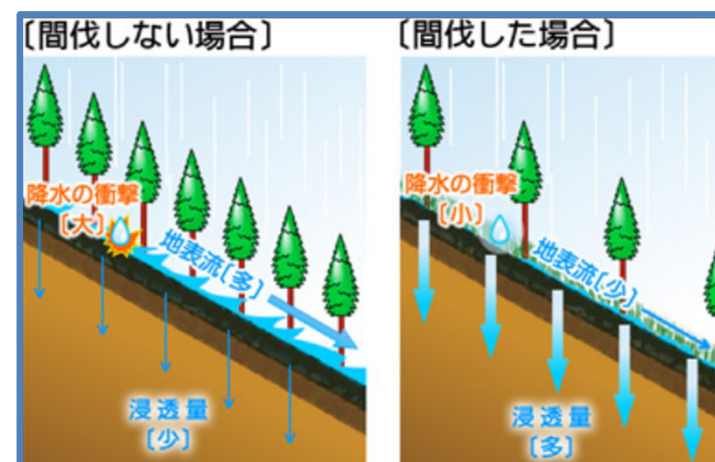
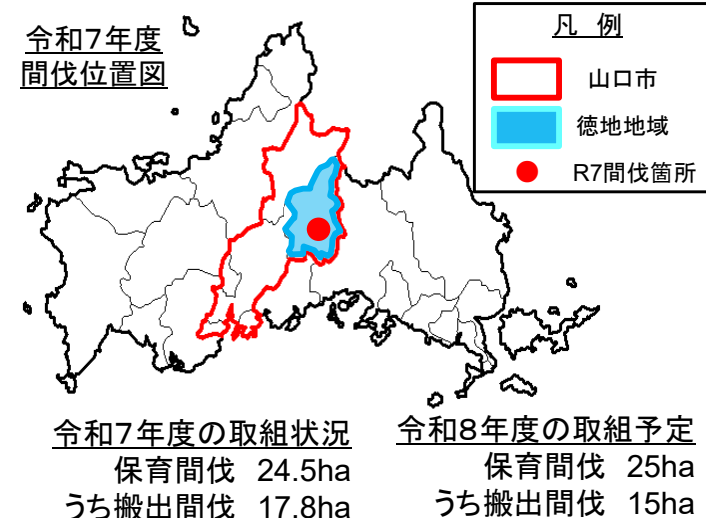
県で定めた研修を受け、防災に関する知識と自主防災組織への指導・助言を行えるスキルとノウハウを備えた方で、自主防災組織等の活動促進に寄与する意欲を持つ方をアドバイザーに委嘱・登録し、自主防災組織等からの依頼に基づき、各地域に派遣する制度。



自主防災アドバイザー養成研修(R7年10月)

山口市

・佐波川上流域(徳地鯖河内地区)において森林整備(間伐)を実施しました。



(効果)間伐することで太陽光が適度に注ぎ、残された木々は幹が太く枝葉がしっかりとした健全な木に育ちます。また、根を土壌の中に広く、深く張ることができるようになります。さらに、木の根元まで太陽光が注ぐことで下草が繁茂し、雨水が草木によってゆっくりと土壌に浸透することから「緑のダム」として機能します。

- 令和7年7月に山口市介護サービス提供事業者連絡協議会の会員が所管する22の施設を対象として、「災害発生時等における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結しました。
- 令和8年4月1日に22施設を福祉避難所に指定し、同年6月1日から運用を開始しました。



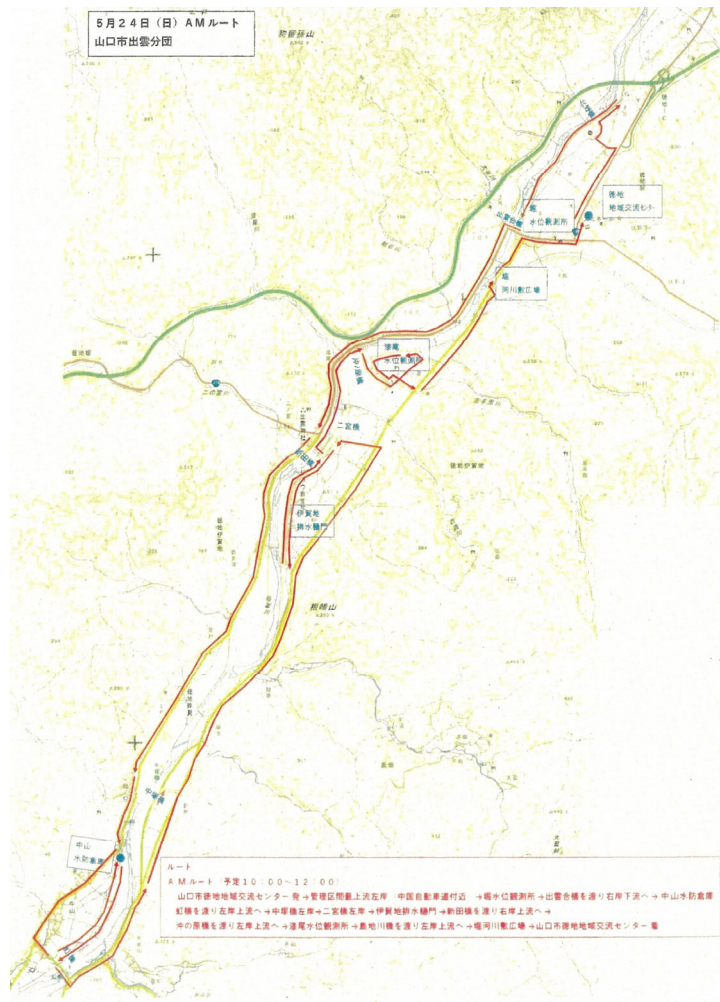
福祉避難所看板(特別養護老人ホームとくぢ苑)



福祉避難所の様子

「避難マイプラン(個別避難計画)」で事前に調整された、高齢者や障がいのある「要配慮者」が安全性に配慮された環境で避難生活を送ることができます。

- 佐波川の水害リスクへの理解を深めることを目的として、出水期前に地域住民の方と合同で佐波川の重要水防箇所を確認し、佐波川の概要や洪水情報の取得方法等について情報提供を行った。



★巡視のポイント★

- ・危険個所の確認
- ・判断基準の共有
- ・初動の迅速化

👉「迷わず動ける状態をつくる」

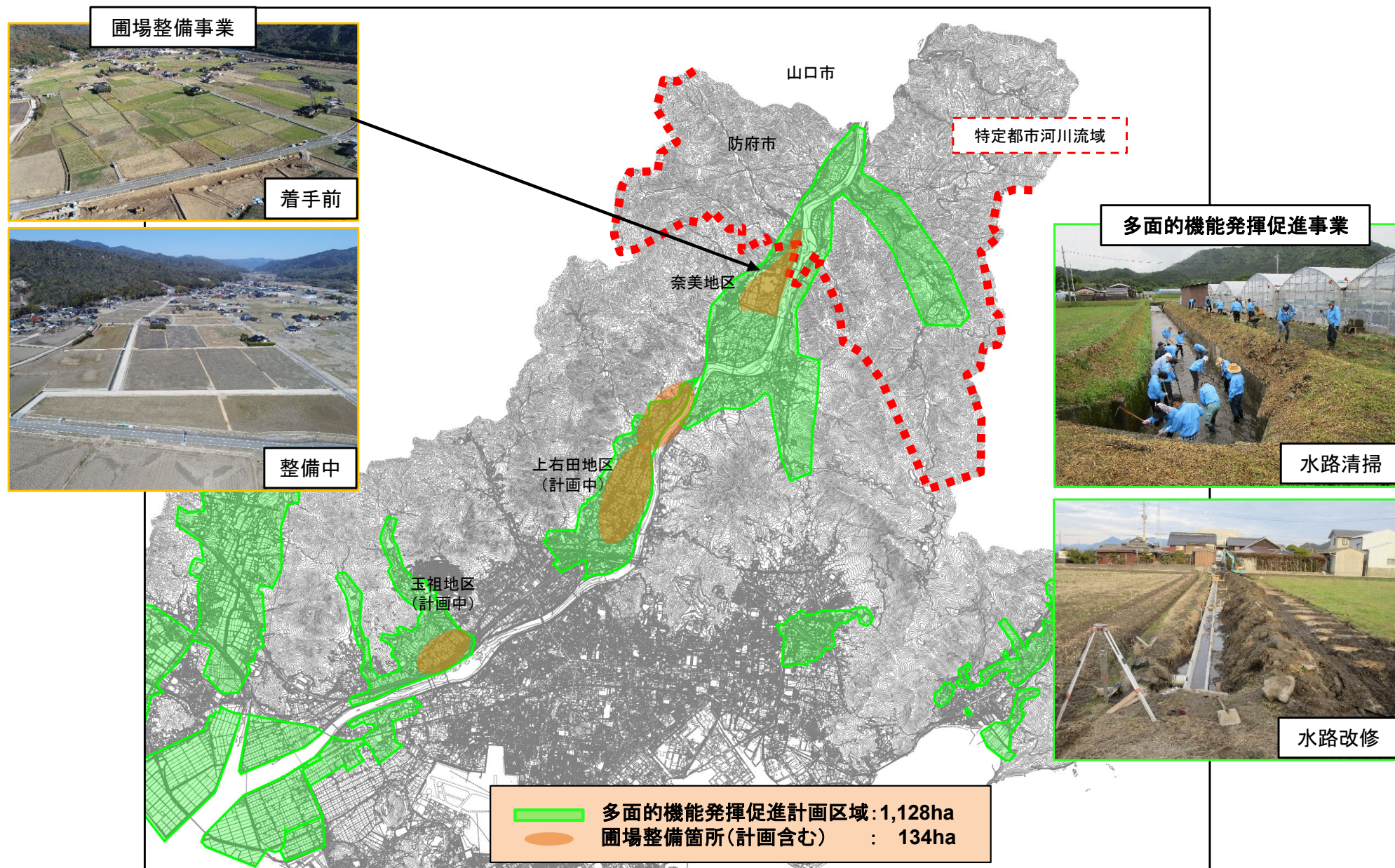


消防団との合同巡視の様子(令和8年5月24日)

自治会との共同点検の様子(令和8年5月27日)

防府市

水田貯留機能向上・農地の保全を図るため、多面的機能発揮促進事業や圃場整備事業を活用し、水路流下能力や耕作放棄地の改善等を促進する。



こども防災士の養成

災害に対する知識を学び、自らの命を守るための力を身に付ける防災教育を通じて、将来の地域防災の担い手を育成する「こども防災士養成講座」を実施。(R7:13人をこども防災士に認定)
こども防災士はイベント等で防災啓発活動に従事。



防災啓発活動の様子

防災拠点や医療拠点を繋ぐネットワークの整備

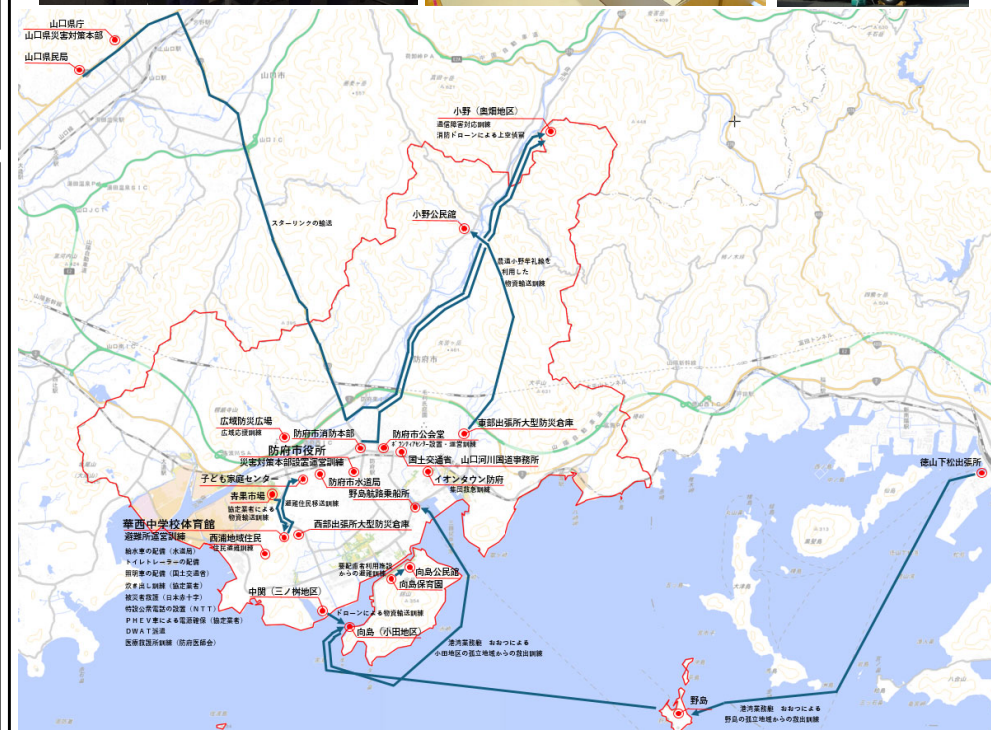
防災・医療の広域拠点となる広域防災広場の整備



造成に佐波川の浚渫土を活用

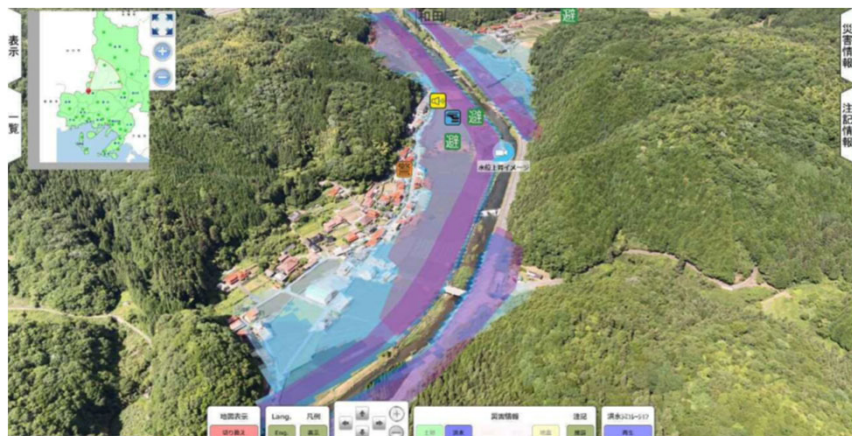
初動3日間連続の総合防災訓練の実施

令和8年度は、南海トラフ巨大地震による「死者ゼロ」を目指し、国・県等の関係機関や防災士等連絡協議会と一体となった、初動3日間連続の実践的な総合防災訓練を実施。



周南市

令和7年度:web版ハザードマップを活用した防災授業を実施。令和8年度:防災ポータルサイトを開設し、迅速・的確な情報を提供。



和田地区の小学校児童と住民を対象に地域の災害（洪水）について防災授業を実施。



令和8年5月8日開設。防災気象情報や避難指示の発令、避難所の開設状況等を確認することができる。